

|       |   |
|-------|---|
| 研究テーマ | 日本の美術や伝統と文化を主題に、豊かに発想し構想する力を育てる指導の在り方<br>—中学2年「連續模様のマグカップづくり」の実践を通して— |
|-------|---|

## 境町立境第一中学校 教諭

## I 研究テーマについて

文様は、古くから器や着物など身の回りのものに刻み描かれ、私たちの生活を彩ってきた。「チェック柄」「ドット柄」というと生徒たちにもなじみのあるものである。これは日本古来の文様の種類でいえば「格子柄」「水玉柄」という。実態調査では、日本古来の文様を知らず、身近にあることに気づいていない生徒も多かった。和の文様は、先人たちの生活を彩ってきた装飾のデザインである。生活に息づいた和の文様を学習することで、そのよさや美しさを味わい、生活を豊かにする美術の働きについて考え、さらに日本の美術文化についても理解を深めることができると考える。

これまで第2学年では、モダンテクニックを使っての空想画の制作や、文化祭のクラス合唱曲を抽象表現で描く活動を行ってきた。形や色彩の組合せや、画面の中で工夫して構成する力はついてきている。したがって、この題材では、既習事項である構成美の要素を取り入れてデザインを構成することができるであろう。これまでの単純な幾何形の構成から、モチーフを単純化、強調し、図案化したものを構成することで、和の文様をテーマに豊かに発想し構想する力を育てたいと考え、本テーマを設定した。

## II 研究の実際

## 1 題材名 「和を感じて」～連續模様のマグカップづくり～

## 2 題材の目標

- (1) 和の文様や紋などの模様のよさや美しさに関心をもち、そこから主題を生み出し、構想を練ろうとしている。（美術への関心・意欲・態度）
- (2) 自然物や器物などを基に、形や色彩の効果を生かして、連續性を生かした文様の構想を練ることができる。（発想や構想の能力）
- (3) 表したいイメージをちらながら意図に応じて、上絵付けの特性を考えながら、形や色彩を工夫して創造的に表現することができる。（創造的な技能）
- (4) 和の文様や紋など模様の造形的なよさや美しさ、生活における美術の働きなどを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。（鑑賞の能力）

## 3 題材について

## (1) 生徒の実態

| ○事前調査の結果                 |        |         |           |
|--------------------------|--------|---------|-----------|
| 美術の制作活動は好きですか。           | はい：20名 | いいえ：8名  | わからない：7名  |
| 生活の中で美術の働きを意識したことはありますか。 | はい：8名  | いいえ：15名 | わからない：12名 |
| 和の文様を見たことがありますか。         | はい：10名 | いいえ：16名 | わからない：9名  |

本学級の生徒は、ものづくりに興味を示す生徒が多く、作品制作にも熱心に集中して取り組んでいる。しかし、事前調査の結果からもわかるように、これまでに生活の中での美術の働きについて意識している生徒は少ない。また、和の文様などに代表される連續した模様を生活の中で意識して見ることはあまりないことが分かった。普段の生活で使用する自分の持ち物は気に入ったデザインを選ぶことはあっても、それを構成する模様や文様などには造形的な視点を向けたりすることがなく、生活の中のデザインを美術の授業と関連させたりすることがないため、表現に生かしたりすることができていないことがと考えられる。

## (2) 題材観

本題材は、中学校学習指導要領（平成29年7月）解説 美術編 第2学年及び第3学年の内容A「表現(1)イ、B鑑賞(1)イに基づくものである。日本の伝統的な文様を鑑賞し、日本の美術と伝統や文化、日本の美意識を味わうとともに、主題を生み出し、目的や機能を考えて発想し構想する力を高め

ることがねらいである。色転写紙をはさみやカッターで切り取り、マグカップに貼っていく「ポーセラーツ」という上絵付けの技法でマグカップを制作する。和の文様という、一見生活とはかけ離れているテーマからオリジナルの文様を生み出し、実生活で使えるマグカップを作ることで、先人たちの見方や感じ方に思いを馳せ、何万年も昔から生活を彩るデザインが生み出されたことを学ばせたい。

### (3) 指導観

生徒の実態を踏まえ、本題材では、身の回りにある連續した文様や日本の文化の中で生まれてきた和の文様について考え、生活を豊かにする美術の働きを意識できるようにしたい。和の文様や連續した文様を鑑賞し、形や色彩などから日本の伝統や文化、美意識を理解させるとともに、その成り立ちを知ることにより、自然物や器物を基としたデザインの工夫を意識させる。実生活に使えるマグカップを制作することで、生徒の関心を高めることができると考える。デザインの構想にあたっては、自然物や器物を基にオリジナルの文様を考え、和の文様の表現の型である「つなぎ」を基に「やぶれ」「くずし」「ちらし」などのアレンジを加えることにより、マグカップに構成するときの選択の幅を広げていきたい。

## 4 題材の評価規準

| 関心・意欲・態度  | 発想や構想の能力  | 創造的な技能   | 鑑賞の能力  |
|---|---|--|--|
| ・和の文様や紋などのよさや美しさを味わい、主体的に連續した文様のデザインの構想を練ろうとしたり、工夫して表現しようとしている。 | ・和の文様の特徴を理解し、形や色彩の効果を生かして構成や装飾を考え、連續した文様の構想を練ることができる。 | ・自然物や器物の特徴を生かした文様の形や色彩、構想について、上絵付けの特性を生かし、創意工夫して表現できる。 | ・日本の伝統的な文様や、連續した模様のデザインのよさや美しさを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。 |

## 5 指導と評価の計画（8時間扱い）

| 時間       | 学習活動・内容                                    | 関 | 想 | 技 | 鑑 | 評価基準・【評価方法】  |
|----------|--|---|---|---|---|--|
| 第1次<br>① | ・和の文様を鑑賞する。<br>・和の文様をスケッチし、連續した文様の特徴を理解する。 | ○ |   |   | ◎ | ・日本の伝統的な文様などの形や色彩のよさや美しさを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。<br>・文様を観察し、形の特徴をとらえ、理解しようとする。<br>【観察・アイデアノート】     |
| 第2次<br>② | ・テーマをもとに、アイデアスケッチをする。                      | ○ | ◎ |   |   | ・和の文様の特徴を理解し、表したいテーマを単純化、強調し、文様の連續性を生かしたデザインの構想を練っている。<br>【観察・アイデアノート・ワークシート】                      |
| 第3次<br>④ | ・マグカップに、上絵付け（ポーセラーツ）の技法で連續した文様を表す。         | ○ |   | ◎ |   | ・構想を基に、形や色彩の効果を生かして、主体的に表現しようとしている。<br>・はさみやデザインカッターを正しく安全に使用し、それぞれの特性を生かしながら工夫して表している。<br>【作品・観察】 |
| 第4次<br>① | ・できあがった作品を相互鑑賞し、よさや美しさ、工夫などを感じ取る。          | ○ |   |   | ◎ | ・作品のよさや美しさ、工夫を感じ取り、理解を深めようとしている。<br>【観察・ワークシート】  |

## 6 指導の実際

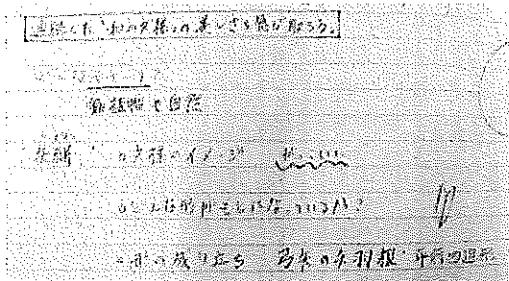
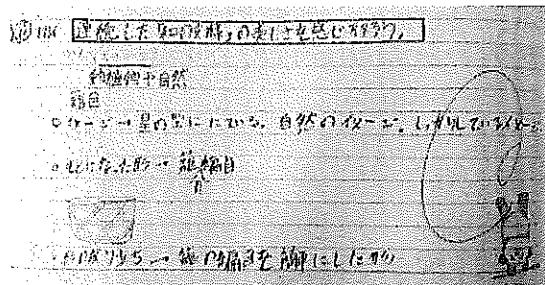
〔第1次〕

4人1組のグループ活動とした。グループで興味のある和の文様を決め、「文様はどんな印象か」「文様全体を構成する形（1単位となるもの）はなにか」を話し合った。グループごとに様々な意見が出て活発に活動していた。最後に、資料集を使って文様の形の成り立ちを調べ、昔の人は身の回りにあるものをデザイン化してつなげることで、文様を生み出したことを知った。

### グループで考えてみよう

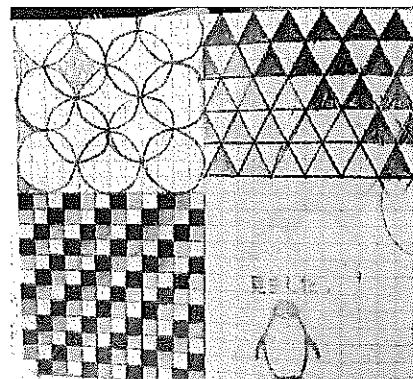
- どのようなモチーフが多いのだろう。
  - ひとつひとつの模様の形はどんな形？
  - 並べると、どのように見える？
  - 並べると、どんな印象？
  - 形の成り立ちは…

#### ▲導入で使用したスライド



▲鑑賞で使用したノートには、形のスケッチをしている生徒もいた。

その後、個の活動として、資料から好きな和の文様を選びマス目のある用紙（アイデアノート）にスケッチする作業を行った。和の文様をよく観察し、自分なりのアレンジを加えるなどして描くことができた生徒もいた。



和の文様をもとにスケッチしたノート。▶  
色の濃淡をつけ、工夫して描いている。

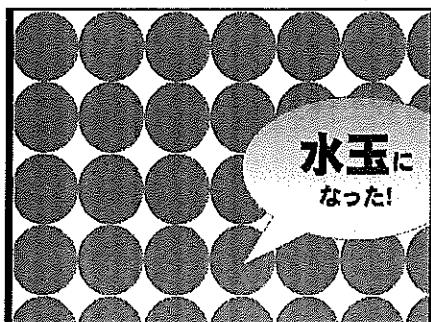
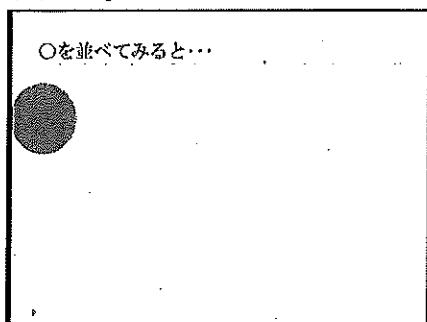
〔第2次〕

【第2回】 第2次の導入では、2020年の東京オリンピックのマークを提示し、どんな形で構成されているか、どんな和の文様がもとになっているか考えた。

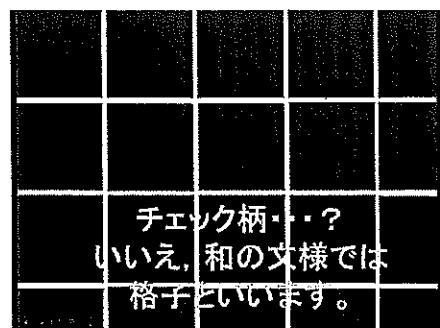
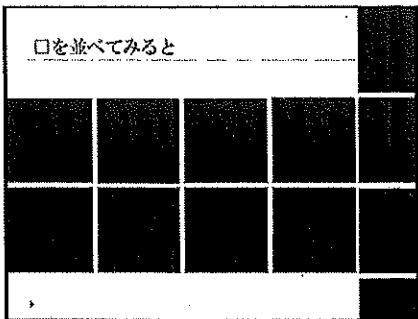
どんな形や文様が  
もとになっているで  
しょう？

実は…2つのマークは  
同じ枚数でできてい  
る!!

また、PowerPoint を使って、単純な形で組み合わされている文様を見せ、和の文様を身近に感じさせる工夫をした。

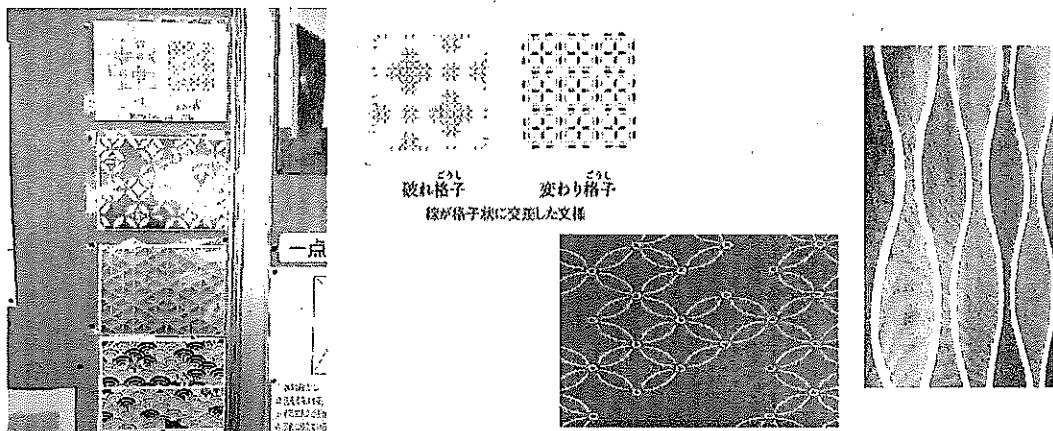


特に水玉のスライドに関しては、基本となる形をずらしたり重ねたりすることでイメージが変わったり、余白を別の形に見立てたりと、新たな文様の見方や感じ方をもって活動に入ることができた。



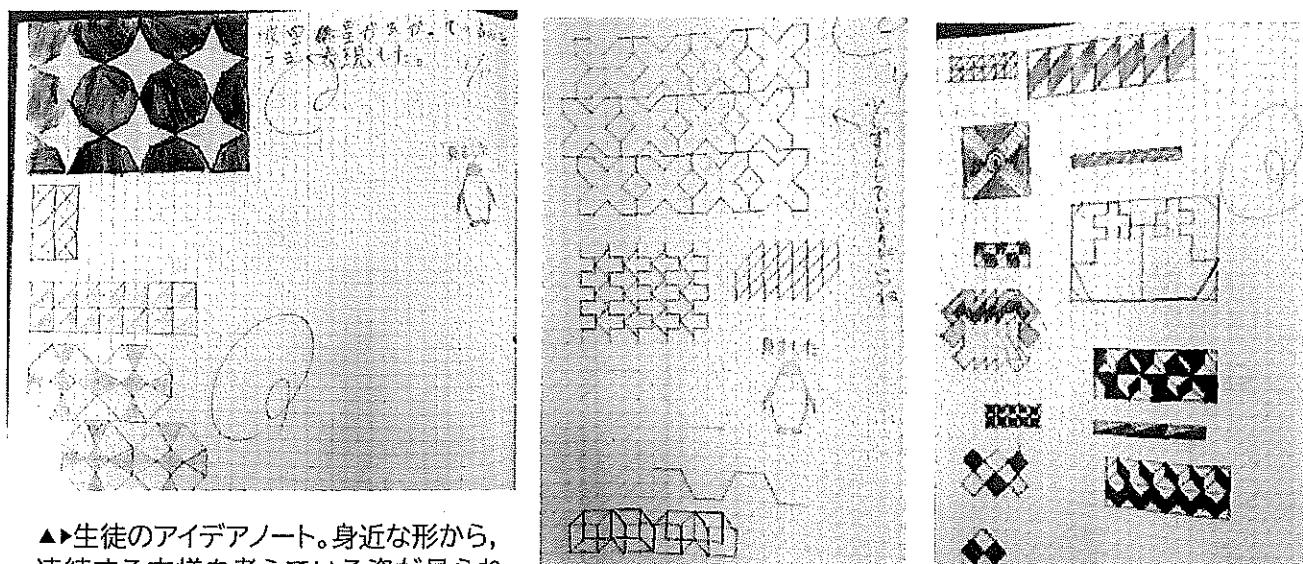
文様をかくことに苦手意識のある生徒もいたが、単純な形の組合せでできる和の文様は決して難しいものではないということを示し、オリジナルの文様づくりに入れるようにした。

自然物や器物をモチーフとしたが、なかなか思いつかない生徒には、前時に行った和の文様のスケッチに一旦戻り、「どんな形を表したいのか」「どんな色で表すのか」を言葉で表したり文様の例を見せたりして、活動を通して自分なりのイメージをもってできるようにした。

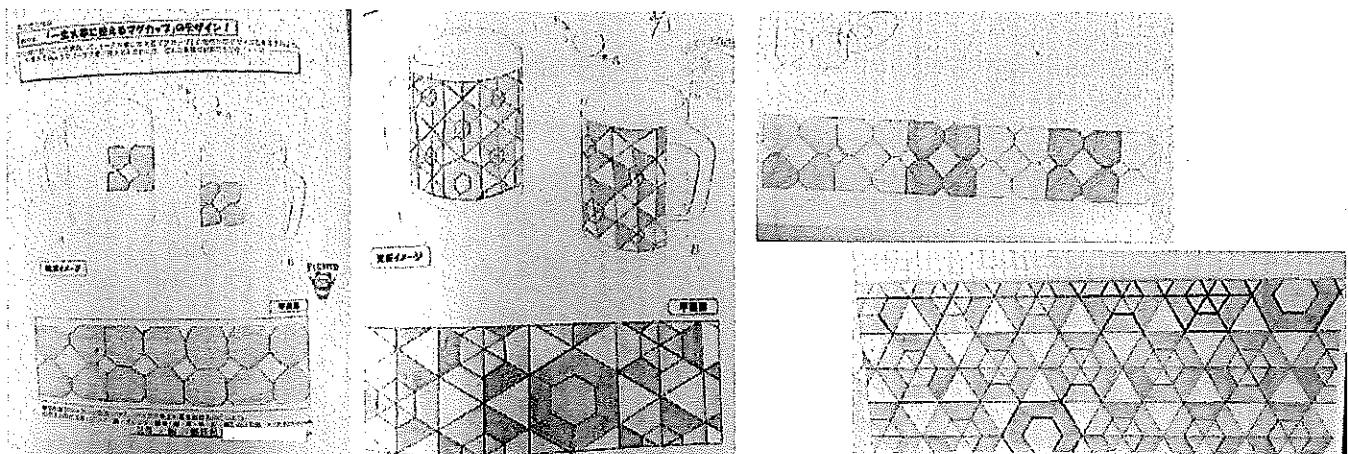


▲美術室には、生徒がアイデアを深められるよう、週替わりでさまざまな和の文様を掲示した。

まず、基本となる文様の1つの形を決め、マス目のある用紙に縦や横に連続させる方法で文様のイメージをもちろん活動できるようにした。また、ワークシートには完成イメージを記入させ、筒形になったときにどのように見えるかも予想しながらデザインを考えるようにした。実際に制作する上絵付けのマグカップと色転写紙を見せ、制作工程を紹介することで、見通しをもって制作できるようにした。



▲生徒のアイデアノート。身近な形から、連続する文様を考えている姿が見られた。

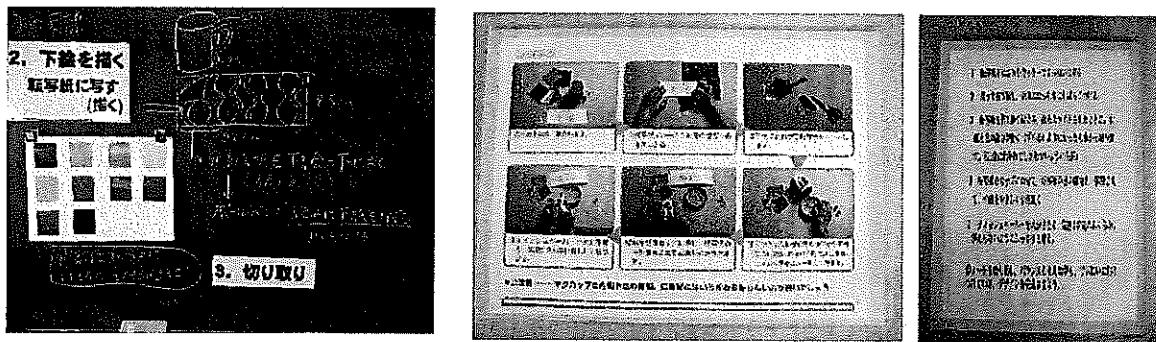


▲花をモチーフに単純化し、アイデアスケッチを描いた生徒。実際に制作するマグカップと同じ大きさの紙に、平面図を起こした(画像右)。これを基に、次時からの制作を進める。

### [第3次]

色転写紙による上絵付けの技法で、マグカップに絵付けを行う。

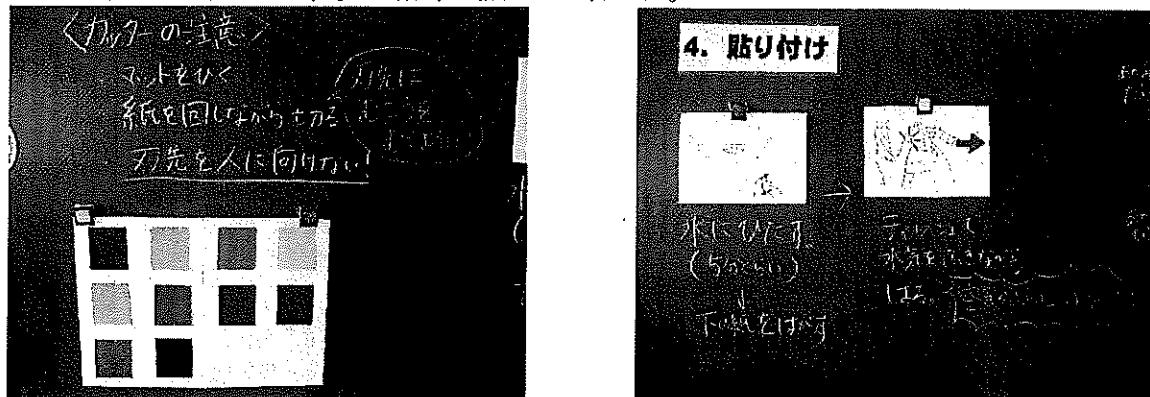
色転写紙に、マグカップと同じ大きさの平面図から形を写しとり、はさみやカッターで文様を切って貼り付ける作業である。はじめに、教師が実演して制作過程を示した。また、各グループに制作の工程をかいたシートを配付し、やり方に迷ったときにはシートを見て作業できるようにした。



▲グループごとに配付した手順のシート

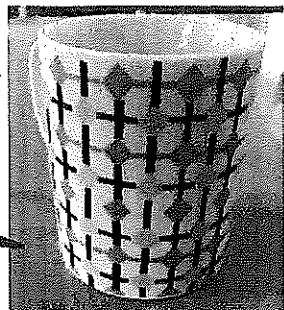
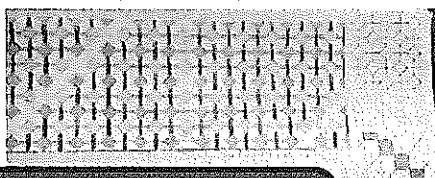
この絵付けのよい点は、切り取った色転写紙の貼り付けに失敗してしまっても、焼成前であれば転写紙を削ってやり直すことができる点である。転写紙がめくれたりずれてしまったりしたときは、教師側で転写紙を削り、もう一度生徒が貼り付けをした。

細かい文様を切り貼りする生徒もいたため、デザインカッターを使用する際の注意点を毎時間の授業の導入で話すことで、安全指導を徹底して行った。

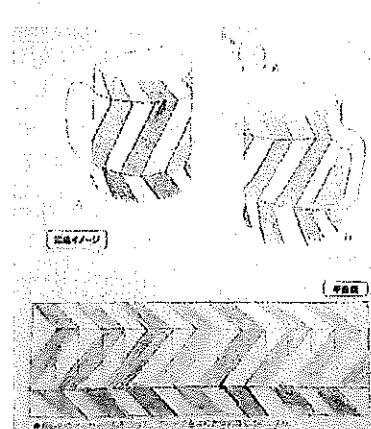
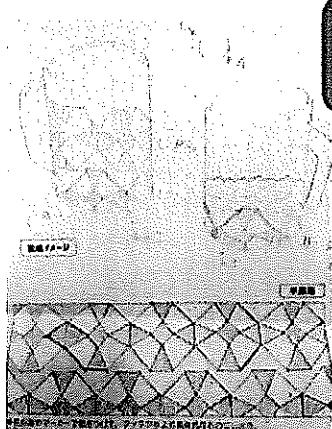


[第4次]

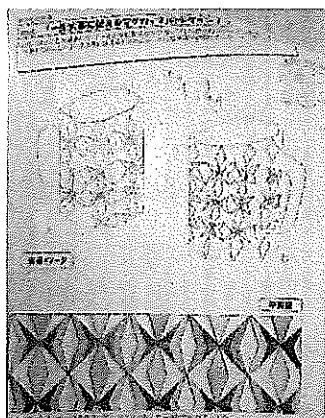
焼成前の作品の鑑賞を行った。デザインスケッチと作品を並べ、ワークシートに制作の感想を書き、相互鑑賞を行った。



「やぶれ」を使いました。線の表現が難しかった。計算したとおりにはいかなかつたけど、イメージに近いものはできました。

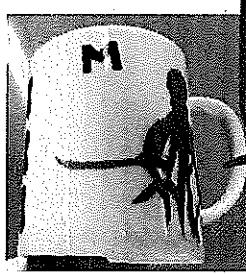
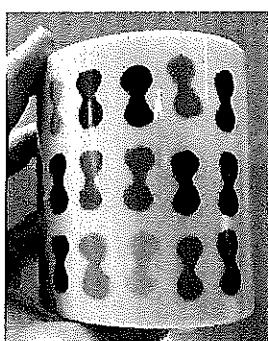
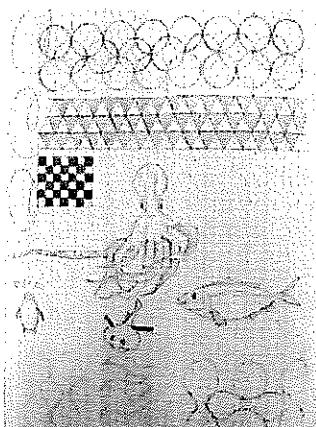


走る人をイメージした。模様をずらしたのがポイント。うまく出来た。



端をイメージしました。文様を切るのが難しかった！

花をイメージしました。細かくしきたため、途中でデザインの変更をしたけど、作るのは楽しかった。



たこのイメージで、カラフルに作った。ちょっとずれてるのは味。スケッチに描いたたことインシャルをポイントにした。

生徒の完成作品(一部)

生徒からは、「イメージ通りのマグカップができてよかったです」「文様のアイデアがなかなか出てこなかつたが、作るのが楽しかった」「切り取りが大変で、思ったより作るのに時間がかかってしまったが、お気に入りのマグカップができた」という肯定的な感想があつた一方、「曲線のデザインで、

全部同じ形に切るのが難しかった」「デザインを細かくしてしまい、作るのに時間がかかってしまった」「最初に考えたのがうまくいかず、途中でデザインを変えたので、出来上がりが少しイメージと違ってしまったのが残念」という、自分のアイデアをうまく形にできないもどかしさを感じる生徒もいた。

### III 研究の成果と課題

#### 1 成 果

- ・自分が生活で使うマグカップの制作は、絵画や彫刻などの表現の分野に苦手意識をもっている生徒も集中して活動することができた。
- ・自分の好きなものを単純化、強調してつなげたり、自分なりの和のイメージを考えたりして、工夫して面白い文様を表すことができた生徒も多く、第4次の自己評価カードでは、「満足のいく作品ができた」という生徒がクラスの7割に上った。
- ・マス目のある用紙を使ってデザインすることで、基本となる形を縦や横につなぐことが容易であり、アイデアノートを活用して活動することができた。
- ・カッターを使うことに関して苦手意識のある生徒は少なかったが、安全指導を繰り返し行うことにより、授業時間内には大きなかがもなく制作することができた。また、デザインカッターを使うのは初めての生徒が多かったが、細かい作業ができると知り、進んで使う生徒が多くなった。
- ・授業後の調査では、「制作を通して、生活を豊かにする美術の働きについて考えることができたか」という質問に対して、「よく考えることができた」「考えることができた」という回答は半数以上、「和の文様を理解し、文様のアイデアに生かすことができたか」という質問に対して、「できた」「まあまあできた」という回答は3分の2以上になった。今まで気づかなかつた身近にある文様のよさや美しさに気づき、オリジナルの文様の発想や構想につなげることができた生徒が多かった。
- ・日常の生活で生徒自身が使うことを想定したマグカップの制作は、生活を豊かにする美術の働きについて考え、我が国の美術文化について理解を深め、発想や構想の能力を育てることにつながったと考える。

#### 2 課 題

- ・自然物や器物から発想することが難しい生徒も多く、結果的に和の文様からの発想に留まってしまい、単純な形（丸や四角、三角など）でデザインを構成する生徒も少なくなかった。アイデアスケッチの段階からスマールステップで行い、発想や構想を促す学習の工夫が必要である。
- ・形を捉えてスケッチすることを苦手とする生徒が多い。日頃からクロッキーの時間をもち、スケッチすることの苦手意識をなくしていきたい。
- ・色転写紙の貼り付けの際に、自分の描いたデザインを再現することが難しく、第3次の途中でデザインを変更する生徒がいた。制作過程は事前に示していたが、転写紙を切り貼りするときのことも考慮してデザインできるよう、教師からの個別のアドバイスが必要だと感じた。
- ・生徒によって、大きな進度の違いが出てしまった。どんな題材でも、進度の違いが出てしまうことが最大の課題である。ワークシートの活用などで時間を区切っての活動の工夫を教師側で行う必要がある。

※参考文献 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 美術編 文部科学省  
美術1, 2・3上 教師用指導書 授業の指導編 日本文教出版

